

第 11 回 REIC 防災セミナー

平成 26 年 10 月 17 日

講師 中村洋光 氏（独立行政法人防災科学技術研究所）

講演題目「リアルタイム地震被害推定システム（J-RISQ）の開発」

要旨

地震発生直後に迅速に被害状況を把握することは、より適切な初動体制を確立するための意思決定を行う上で極めて重要である。

独立行政法人防災科学技術研究所（以下、防災科研とよぶ）が地震ハザードステーション（J-SHIS）の開発にあたり蓄積してきた表層地盤の増幅特性データや人口・建物に関する情報等の基本情報や、地震地震動の予測手法、建物の被害評価手法と、K-NETやKiK-netから得られるリアルタイム強震データ等の観測データを組み合わせることで、即時的に被害推定を行い、情報を提供するリアルタイム地震被害推定システム（J-RISQ）を試作した。

（※[防災科研のホームページから閲覧できます](#)）

このシステムは、基本的に震源の情報は用いず、観測点で得られる震度情報から面的な地震動分布を推定し、それを入力として震度暴露人口や建物被害推定を行い、Web GIS を用いて Web ブラウザやメールでユーザに情報提供する。その際、システムは、時間的にばらばらに送られてくる震度データに対して、その時点で入手したデータを用いて推定を行い、新しいデータを受信する毎に逐次的に推定結果を更新することで、即時性を確保する。

最後に、システムの実用化に向けて幅広い情報の利用を進めるためには、他のシステムからも情報の利用が可能となるような WMS (Web Map Service)、WFS (Web Feature Service) 等の国際標準の相互運用方式による情報提供やクラウド環境での実現可能なシステムの検討が必要であると考えます。